15 GovTech東京 2年目の挑戦

個別事情に寄り添い町村をサポート

GovTech東京DX協働本部 区市町村DXグループ（区市町村DX担当）

瀬能 学
林 浩一
西澤みらい

―都内自治体のうち、特に小規模な町村の支援を行っています。

瀬能 都内には人口が約160人の青ケ島村も94万人の世田谷区もありますが、人口に連動して小規模な自治体では職員の人員不足が課題となっています。さらに島嶼（とうしょ）地域は地理的にも都心から遠く、隣の自治体とも海を隔てているため、連携も取りにくい実態があります。ガブテック東京（GTT）がお手伝いすることで、地域間で差が生じないようにしたいという考えで支援しています。

―区部とは支援の内容も違いますか。

瀬能 DXに踏み出せないところ、手が足りないところをお手伝いするので、「職員の日々の業務に加えての新たな負担をできるだけ増やさずにDXしませんか」というスタンスで支援しています。

林 我々の区市町村DXグループの他のメンバーは、特定の業務のデジタル化に向けた伴走支援を行っていますが、市町村を担当する我々は特定の業務ではなくDX全体を支援します。中には情報システムを1人で担っている自治体もありますので、幅広くトータル的に支援しています。

西澤 今年度の事業では、情報システムの担当者だけでなく全職員を対象に体験会を実施してツールに親しむ機会を設けました。

―町村でも西多摩地域と島嶼地域では支援が異なりますか。

林 人員不足という意味では同じです。ただ、地理的な違いがあります。西多摩地域は地続きということもあり、それぞれの自治体間でコミュニケーションが図りやすく、島嶼地域は海を隔てている分、難しい部分があります。我々が島嶼地域に伺う際にも、事前にオンラインで打ち合わせして準備し、特定の目的を決めてから訪問しています。

―苦労する点は。

瀬能 現場の職員は、多くの日常的な業務に対応している中で、新しいことに取り組むハードルは高いですよね。特に規模の小さな自治体では、日常的な業務が忙しいため、「新しいことをやるために時間をください」というのは難しい。

林 ある程度の規模の自治体では複数人で担っている業務を、町村だと1人で行っていたりします。そうした中で「DXやりませんか?」と言っても、それどころじゃないので、個別の状況を理解するために、まずは関係性の構築を第一に心掛けています。

―関係性構築のために工夫している点は。

瀬能 当たり前のことですが訪問して対面で会話することですね。ここはデジタルでなくアナログにこだわりたいところです。オンラインではなく、何回か直接お会いしているうちに私たちの考えを分かっていただける。また、それぞれの事情を酌むことも重要です。町村それぞれに個別事情がある。これをきちんと理解することも重要だと考えています。

―今年度の町村部への支援は。

瀬能 西多摩の4町村と島嶼地域の9町村、合計13町村に向けて、東京都の事業としてデジタル技術活用支援事業を実施、GTTがサポートしました。GTTのメンバーと東京都の職員が一緒になって、10町村でWEBフォームの導入支援や生成AIの体験会など、具体的な取り組みができました。自治体DXの目的は住民サービスの向上に加えて役所の内部業務を効率化することも重要という考えで進めており、それが町村の考えとも一致したと思います。

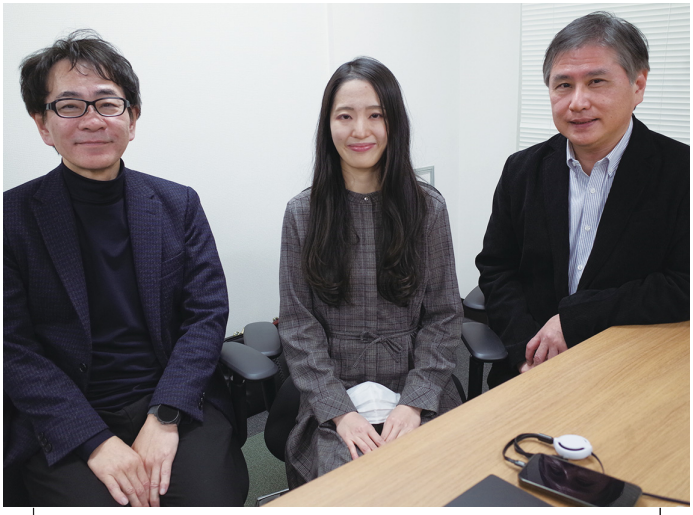
―今後の町村部への支援の展開は。

瀬能 今年度の取り組み成果を十分に引き出すため、引き続き業務の効率化が必要だと思っています。今年度の事業を拡大し、ぜひ来年度は全町村で実施していきたいと考えています。加えて、ノウハウの共有など町村同士の横のつながりを作っていければとも考えています。

林 我々が区市町村のハブとなってナレッジを共有できればいいと思っています。個別に支援や訪問の回数を増やし、将来的には複数の町村にトータルでメリットが出るようなことも視野に取り組んでいきます。

西澤 町村の職員は1人で複数の業務を抱えているケースもあります。扱っている内容として複雑なものもありますが、業務を効率化することで現場の負担が少しでも減ればいいなと考えています。

＝おわり



せのう・まなぶ㊨＝1965年生まれ。電器メーカーに30数年間勤務した後、2022年10月にデジタルシフト推進担当課長として都庁へ。23年９月にGTTに。工作が趣味で、最近は機械式腕時計を自ら組み立てる。「どのパーツを組み合わせて作ろうかと考えるのが楽しい」

にしざわ・みらい㊥＝1995年生まれ。SIエンジニアを経て2023年４月に新卒枠で都に入庁。デジタルサービス局から23年９月にGTTに派遣。最近は都内にあるアンテナショップ巡りにはまっており、お勧めは竹芝桟橋にある「東京愛ランド」。

はやし・こういち㊧＝1964年生まれ。中核市の職員として情報部門を担当し、2023年４月にデジタルシフト推進担当課長として都庁へ、24年４月から現職。山登りが好きで奥多摩や丹沢の山をゆっくり歩きたいが時間がないのが悩み。「プライベートでも多摩や島嶼を楽しみたい」